音楽科　中学校 2年　音楽科　「創意工夫して混声四部合唱で歌おう」　矢吹町立矢吹中学校

B 個別学習（B１）

主な学習活動　タブレットを活用して、自分のパートの練習、振り返りを行うことにより、表現の工夫を考える。

1 本時のねらい

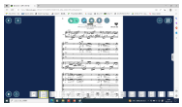
歌唱表現を創意工夫して、他者とどのように合わせて歌うかについて思いや意図をもつ。

2 主に活用したＩＣＴ機器・コンテンツ等

電子黒板　**授業支援**

・**思考ツール**として
→課題のあるところを繰り返し練習する。

・**情報共有ツール**として
→PDFの楽譜にどのように歌いたいかを記入し共有できる。



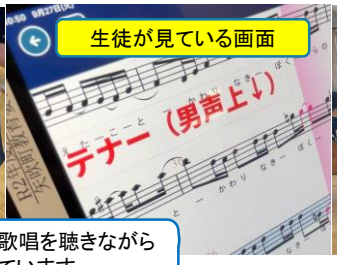
・**様々なまとめの形態**
→動画を撮影し自分の演奏をチェックする。
→学習の振り返りを行う。

3 参考にしてほしいポイント

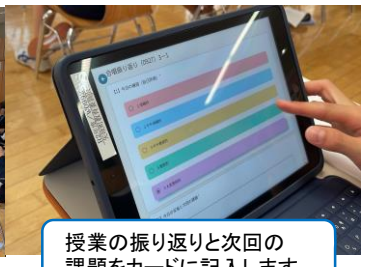
・タブレットを使い、楽譜と連動した音声練習ツールで、何度でも課題解決に取り組むことができる。
・タブレットの動画撮影機能を利用し、個人・パート・全体の演奏を振り返ることができる。

段階 場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
展開	それぞれのパートでどのように歌えばよいか考えたことをタブレットの楽譜に記入する。	（ロイロノート：ワークシートの送信と個人での利用） ・タブレットに表示された楽譜に、思いや意図を指やデジタルペンで書き込みながら思考する。
	自分たちの歌声を聴き、どのように歌っているのか確認する。	・ロイロノートで練習の様子を撮影した動画を共有し、互いの演奏の様子を振り返り、良かった点や改善点を学習カードに記入して話し合い、表現の方法を工夫する。

楽譜と模範歌唱を聴きながら個人練習しています。



モニターやタブレットを見ながら全員で歌っています。



授業の振り返りと次回の課題をカードに記入します。

4 活用効果

ガイド音声と楽譜を連動させた動画を見ながら個人練習ができるため、気になる箇所について何度でも繰り返し取り組むことができる。

自分たちの歌唱を動画撮影し振り返ることにより、話し合い活動を通して表現の工夫を考えることができる。

5 アドバイザーからのコメント

楽譜を見ながら、自分がどのように歌えばよいかを記入することは、極めて興味深いですね。楽譜通りに正確に歌う、感情を生かすなど、自分の解釈した方法を取り入れることは、個を生かすことにつながります。さらに互いの歌い方を共有することで、表現の工夫が深くなります。（東京工業大学　赤堀侃司）

個に応じた学びと協働的な学びを形にするという点において、ICTが持つメリットをうまく活用した実践であると考えます。クラスとしてどのような表現を行っていくかを、共同編集などを通じて共有する機会が増えると自然に表現が洗練されていくも期待されます。（福島大学　平中宏典）